

C患者：強い湿性咳嗽が始まる

- ①吸引の前に手洗いorウエルバスを使用したか
- ②患者に吸引することを説明したか
- ③吸引後患者にねぎらひの言葉をかけられたか
- ④吸引後呼吸状態を確認できたか
- ⑤吸引の後に手洗いorウエルバスを使用したか
- ⑥患者の側を離れるときに注射の速度状況を確認できていたか

【評価の視点2】

自分の能力の限界を知り、先輩ナースに応援を求められるか

【評価の視点3】

態度・言葉遣いは適切であったか

【評価の視点4】

正しい優先順位が選択できたか

1. 看護の基本的知識・技能評価

ステップ1 ① 新人A氏 ② 3ヶ月未満 B ③ 3ヶ月以上 C ④ 半年以上 D
 ステップ2 ① 新人A氏 ② 3ヶ月未満 B ③ 3ヶ月以上 C ④ 半年以上 D
 ステップ3 ① 新人A氏 ② 3ヶ月未満 B ③ 3ヶ月以上 C ④ 半年以上 D

項目	新人	プリセプター
A. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
B. 患者の観察と評価		
1. 患者の観察と評価	○	○
2. 患者の観察と評価	○	○
3. 患者の観察と評価	○	○
4. 患者の観察と評価	○	○
5. 患者の観察と評価	○	○
C. 看護の観察と評価		
1. 看護の観察と評価	○	○
2. 看護の観察と評価	○	○
3. 看護の観察と評価	○	○
4. 看護の観察と評価	○	○
5. 看護の観察と評価	○	○
D. 看護 病室の観察と評価		
1. 看護 病室の観察と評価	○	○
2. 看護 病室の観察と評価	○	○
3. 看護 病室の観察と評価	○	○
4. 看護 病室の観察と評価	○	○
5. 看護 病室の観察と評価	○	○
E. 看護 病室の観察と評価		
1. 看護 病室の観察と評価	○	○
2. 看護 病室の観察と評価	○	○
3. 看護 病室の観察と評価	○	○
4. 看護 病室の観察と評価	○	○
5. 看護 病室の観察と評価	○	○

項目	新人	プリセプター
F. 評価 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
G. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
H. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
I. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○

項目	新人	プリセプター
J. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
K. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○

項目	新人	プリセプター
L. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
M. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○

項目	新人	プリセプター
N. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○
O. 看護実践の基礎知識		
1. 看護実践の基礎知識	○	○
2. 看護実践の基礎知識	○	○
3. 看護実践の基礎知識	○	○
4. 看護実践の基礎知識	○	○
5. 看護実践の基礎知識	○	○

新人看護職員研修制度の必要性がある

4月～6月の現場の状況

1. 医療・看護の現場
 - 人員が切迫している
 - 余裕のない先輩看護師
 - 負担の大きいプリセプター
2. 新人看護師
 - 新人の未熟な知識と技術
 - 次々に変化する状況に対応できない新人
 - 医療事故に対して現実感のない新人
 - 新人の容量を超えた仕事量

新人看護職員研修指導指針の
実践を進めるには

1. 仕組みをつくること（システム、制度など）
2. 教育基盤をつくること
教育専任者を置く、
現任教育システムの構築など
3. 指導者の確保をすること
新人指導者（プリセプター）など